



人になること

榎本栄次

人は、「人である」ことから「人になる」生き物だそうだ。教師になり、牧師になり、夫になり、親になり、子になり、自分自身になっていくのだ。小麦粉がよくコネられて粘りのあるうどんになるように、人も困難に出会って人になっていくのだろう。

生活指導で説教する教師に向かって「キレルよ」と生徒が叫んでいる場に出くわしたことがある。以前は「キレル」というと、賢い人のことを言ったはずが、近ごろはブツンと関係がキレルことをいう。何をするかわからなくなる状態のことらしい。しかし、わたしはこの状況を特別な困ったこととは思わない。ここから始まるのが教育ではなからうか。ここから教師になり、生徒になる作業が始まるのだと思う。

札幌にいたとき、高校の聖書科講師をしていた。ある日、教室に行くとNという生徒がコーラを片手にラジオをかけて後ろを向いて座っている。

注意すると「うるせえ。俺は仏教だ。キリスト教はカンケーねえ」とうそぶく。

「そんなら、欠席にするぞ」と言うと、向き直って私をにらんで

「おおいよ。欠席か。そんなら遊ぶべ」と言って騒ぎ始めた。何人かの仲間が同調し始めた。完全になめられている。

「そんな態度なら単位は出さんぞ」と教師の権威をちらつかせて見せた。こうなってくると、どちらも引くに引けず、にらみ合いになった。周りの生徒は興味深く両方を見ている。Nは英雄気取りで息巻く。授業をつぶした。

「おめえの授業なんて受けたくねえ。」

「いいから座れ」なだめるように言っても

「お前の家に火をつけてやる。スコップでぶん殴ってやる」わたしをにらみつけて脅してきた。聖書の授業どころではなくなった。本当にやりかねない。そばの生徒が「先生、おっかなくないのか」とまじめな顔で訊いた。

「おっかないよ。何やるかわかんないものな。でも、こいつからも授業料もらっているし、少ないけど、給料もらっているから俺としても授業やらないわけにはいかん」。「誰もおめえの話なんて聞きたくねえんだよ。おめえは講師だべ。帰れ」。

生徒は面白がって、やんやと騒ぐ。そのうちにけんかの様になってしまった。

この日は、確かマルティン・ルーサー・キング牧師の「汝の敵を愛せよ」という話をする予定だったが、とてもそのような気分になれない。道徳的なことを言ってみたが、なにも入っていかない。砂を噛むような気分とはこのことだ。自分でも何を言っているのかわからない。早く終わってほしい、残りの10分がどんなに長く感じたことか。

ヤジと騒ぎのうちにどうにか、授業が終わり、疲れはてて教務室に戻ったものだ。

情けないことを先輩教師に相談することもできず、落ち込むばかり。自己嫌悪というか、すべてを投げ出して辞めてしまいたい気分だ。それもできない。自分はどうも教師には向いていないなあと思いながら帰り支度をした。

そこで聞いたことだが、Nは次に何かを起こしたら、文句なしに退学にされるどころにいるらしい。彼も追い詰められていてイライラを私にぶつけてきたのだろう。そんなことはこちらには関係ない。ただ情けないばかりである。

駐車場に行くと、私の車のドアが大きくへこんでいた。その下に氷の塊が転がっていた。なぜか笑えてきた。この時、私の中に「やったる」という情熱のようなものが沸き上がっていた。それは喜びにも似て不思議な力だった。

<次号へつづく>



おさそい

10月5日(木) 13時30分

聖書をいっしょに読みましょう ⑥

座長 榎本栄次(関西セミナーハウス活動センター所長)

10月6日(金) 17時

第5回 修学院きらら山荘 薪能

主催:関西セミナーハウス

10月7日(土) 13時30分

修学院フォーラム～社会～「宗教と戦争を考える(3)」

キリスト教はなぜ戦争について容認するようになったのか

講師 土井健司(関西学院大学神学部教授)

11月11日(土) 13時30分

修学院フォーラム～社会～「宗教と戦争を考える(4)」

内村鑑三の戦争観

講師 岩野祐介(関西学院大学神学部教授)

投稿

京都俳句きらら会

- ・土の中 耐えて世に出る 蟬時雨 拘置所 A
- ・子どもらの目線一点西瓜切る 虚舟
- ・片蔭を拾いつ家へ辿り着き 岳
- ・原爆忌未だ放せぬ核兵器 枯骨
- ・サッカーの子らに混じって赤とんぼ 星児

-お願い-

・グランドピアノお譲りください

関西セミナーハウスではグランドピアノを必要としています。ご家庭に、お知り合いにもお使いになっていないグランドピアノがごありでしたら、ぜひご一報くださいませ。

なんどきですか

・「きらら坂」を始めました。関西セミナーハウス活動センターの様子、そこで出会ったことなどを紹介できればと考えています。皆さんからの投稿やご意見なども期待しています。

・関東大震災のあった9月1日は防災の日。関東大震災では「朝鮮人が井戸に毒を投げ込んでいる」という流言飛語があり、一般市民の自警団による暴行殺傷事件がありました。被害者は千人から数千人に上りました。忘れてはならない教訓です。

・関西セミナーハウスで、釜ヶ崎で「福音を生きる」カトリック教会の本田哲郎神父の講演を聞く機会がありました。

嫌いな人を愛することはむづかしい。無理なくいい。聖書のアガペーを「愛」と訳してはいけない。「お大切に」という意味である。ショックであり、大きな勇気を与えられた。

・下記の方々からセミナーハウスにお祈りと励ましのはがきをいただきました。ありがとうございました。

日本基督教団・京都教会、同・京都丸太町教会、同・京都葵教会、京都 YMCA

・活動センターは、皆様からの寄付によって進めています。出費の多いとき誠に恐縮ですが、ご寄付をくださいますようお願いいたします。

発行所 関西セミナーハウス活動センター

発行人 所長 榎本栄次

電話 075-711-2117

住所 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23

セミナーハウス四季だより

～秋に向かうセミナーハウス～

白川通りから鷺の森神社の境内を抜け、秋を感じる田畑を横目に見ながら坂を上ると、秋映えの高い空をバックに豊かな緑が目に入ります。しかし坂を歩いても歩いても、セミナーハウスの姿はなかなか見えません。山裾の緑の中に溶け込むようにたたずむからです。ここは比叡の谷筋にあり、雨の日に坂を上ると谷合いから霧が立ち込めて、幽玄な世界に迫ることも出来ます。間もなく催される能楽堂の薪能にふさわしい雰囲気です。

晴天の日にセミナーハウスの中に歩み入ると、生き物たちの息遣いが聞こえてきます。最たるのはコゲラです。夕方になるとキツツキの仲間でも一番小ぶりのコゲラがすぐそばで木をつついて音が響きます。息を止めて近づくとなんと木ではなくて枯れた竹をつついてるのです。小さな体なのに大きなドラムの音に聞こえるはず。自己主張が激しいのでしょうか。静かに歩いて回ると多くの自然の命を発見できる秋のセミナーハウスです。

関西セミナーハウス館長 久保田展史